

CHALLENGER!



秋田市 藤垣 貴子 (ふじがき たかこ) さん

キッチンカー事業の運営 ※介護タクシー事業の起業準備中

藤垣貴子さんは、和スイーツのキッチンカーを営む傍ら、新たに介護タクシー事業の起業準備を進めている。まったく異なる分野に挑むことから、力強く前に進む人物像を思い描くかもしれないが、実際にお会いしてみるとその語り口や佇まいは穏やかでやわらかい。「35歳までには社長になってみたいんです」と笑顔で話す様子には、気負いのなさが感じられる。

なぜキッチンカーに続き、介護タクシーという分野に関心を抱いたのか。人生に大きな影響を与えた「師匠」と仰ぐ経営者との出会いや、人との縁に導かれて歩んできたこれまでの道のり、そして今、見据えている展望を紹介する。

画面の向こうから目の前へ――

「師匠」との出会いが、世界の見え方を一変させた

藤垣さんは、学生時代に居酒屋でアルバイトをしていた。人と向き合う接客の時間は楽しく、自分の性に合っていると感じていたという。専門学校を卒業後はテレビ局に就職し、AD（アシスタント・ディレクター）として働き始めた。番組制作を支える現場は刺激的だったが、画面越しに届ける仕事ゆえ、視聴者の反応を直接感じられないことに、次第にもどかしさを覚えるようになった。有期雇用だったこともあり、自身の将来を模索していた。

「面白い人がいる」と知人に誘われ、食事

の席で出会ったのが、後に「師匠」と仰ぐことになる経営者だった。岩手、福島、東京において複数の業界で事業を営むその人の考え方や物事の捉え方はどれも新鮮だったという。出会いをきっかけに好奇心が一気に広がり、まるで生まれ変わったような感覚を覚えた。

今も心に残る師匠の言葉「あなただったら、いつでも、どこでも、誰とでも、何にでもなれる」を支えに、師匠の紹介で飲食店に勤め始めた。人と向き合う接客の時間は、彼女にとっては癒しにもなっていた。

縁が拓く新たな道
いつでも、どこでも、何にでも

自分の店を持つという
決意が形に――
キッチンカー開業までの道のり

様々な飲食店で経験を重ねる中で、藤垣さんはいつか自分の店を持ちたいと考えるようになり、キッチンカーでの開業を決意した。事業に挑戦することで、これまで支えてくれた師匠を安心させたいという想いも背中を押したという。東京の様々な人気店を訪れ、どんな食材で勝負するかを検討した。最終的に選んだのは和スイーツ。元々和菓子が好きだったということもあるが、視覚と味覚の両方でお客様を楽しませることができると決めた手となった。

開業当初は試行錯誤の連続だったが、他のキッチンカーを手伝いながら助言を受け、メニュー構成や見せ方を磨いていった。今ではわらび餅ドリンクが看板商品となった。人との幸せな時間をつくる飲食業が自身の天職だと実感している。



店名「うみの」は早逝した祖父の苗字。家族への想いが宿る

事業詳細

各種イベントに出店する和スイーツのキッチンカーを運営。看板商品のわらび餅ドリンクは、学生をはじめ幅広い層から支持を集めている。

- 屋号 甘味処うみの
- 販売エリア 東北6県
- 事業形態 キッチンカーでの移動販売
- 活動期間 冬を除く期間（3月～11月頃）
- ※介護タクシーは開業準備中



instagram

藤垣さんからひとこと

介護タクシー事業に興味のある女性を募集します。

介護タクシー事業として提供できるサービスを模索中です。興味のある方がいたら、まずはお話ししたいです。



縁があれば何にでもとチャレンジする柔軟さが藤垣さんの強み

託された想い――
介護タクシーという新たな挑戦

キッチンカー事業が軌道に乗ってきた中、師匠を病魔が襲った。身体に麻痺が残り、人生で初めて介護タクシーを利用した師匠は、その利便性と可能性を実感したという。しかし、自らタクシー事業を立ち上げる体力はもう残っていなかった。そこで、その想いを他の人に託すことになったとき、秋田エリアを任せたいと指名したのが藤垣さんだった。それが新たな挑戦の始まりとなった。

それまで介護は身近な分野ではなかったが、師匠の話を聞き、介護職員初任者研修を受ける中で介護の本質に触れていく。単に手助けするのではなく、その人自身ができることに目を向け、自立を支える。その過程で、相手の喜びを間近で感じられる介護の仕事に魅力を見いだした。

現在は二種免許も取得し、介護タクシー開業に向けた準備を進めている。自分はこれと決めつけず、求めがあれば柔軟に伝えていきたい。師匠の想いを胸に挑戦は続いている。